

宮崎汎会員が見た世界の旅・第2部人物編第8話

ショパン ポーランド

作曲家でピアニストであるフレデリック・ショパン（1810年?～1849年）はポーランドの首都ワルシャワから約一時間にある小村ジェラゾヴァ・ヴォラで誕生した。父はポーランドへ移住して来たフランス人であり、母の家系は元ポーランド貴族であった。ショパンの生まれた家は大きな邸宅で彼の遺品などが展示され、テラスではミニコンサートも開催されているそうだ。

庭は広大でゆったりと散策できる。中庭にショパンの銅像があるが、ピアニストらしく指がごつく大きくその長い指に触れてみた。膝に触れると再びここへ戻れると説明を受けた。大勢の人々が触れるとみえ膝頭が光っている。テレビの泉版のようだと苦笑が出る。



ワルシャワから一時間ショパンの生家



生家にあるショパンの肖像画



中庭にあるショパンの銅像

ショパンは幼少のころからピアノ演奏に優れ、ワルシャワ音楽学院へすすみ作曲の勉学に励み首席で卒業した。ウィーンへ次いでパリに住み、39歳の若さで永眠するまでパリを中心に音楽活動が続けた。ショパンはピアノ詩人とも称され誰からも敬愛され、ポーランド紙幣には彼の肖像が使用されている。市民の憩いの場である広大なワジェンキ公園入口には人々の目を引く大きなショパン

の銅像がある。またワルシャワ市内には「ショパン博物館」があり、ショパンに関する遺品等が陳列されファンには見落とせないスポットである。



ワジェンキ公園のショパンの銅像



ショパン博物館。



聖十字架教会



ショパンの心臓が埋まる柱

ワルシャワの聖十字架教会の大きな白亜の柱には戦乱の最中には一時他所に移されたこともあったが、ショパンの心臓が埋め込まれている。教会には世界各地からショパンのファンが訪れている。

ワルシャワ大学の傍にベンチがあった。ベンチに座り隅にあるボタンを押すとショパン作曲のピアノ演奏が流れる仕組みでボタンを押ししばらく聴き惚れた。

世界三大コンクールの一つである「フレデリック・ショパン国際ピアノ・コンクール」は5年ごとに開催され現存する国際音楽ピアノ・コンクールでは最古である。コンクールの課題曲は、全てショパン作曲の作品を演奏することになっている。優勝者は出ていないが、2021年のコンクールでは日本人ピアニストが2位と4位になった。1965年の第5回コンクールで4位になった中村絃子さんがいるが、彼女は多才な才能を持って様々な分野で活躍した。そしてコンクール自体の審査委員にもなった。

余談ながら国立大学の某有名教授は生涯独身を貫いた。教授とごく親しい方の話によると“私は中村絃子以外の女性とは結婚しない”と宣言したそうだ。二人とも亡くなり最早真実は闇の彼方で確かめようがないが。(1992年)